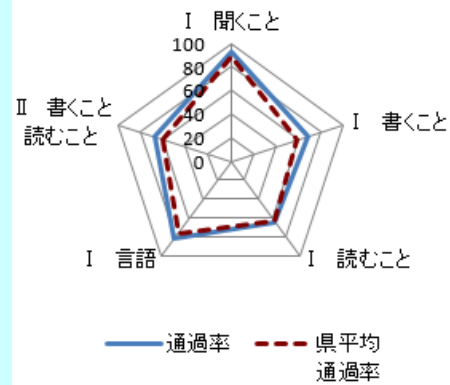


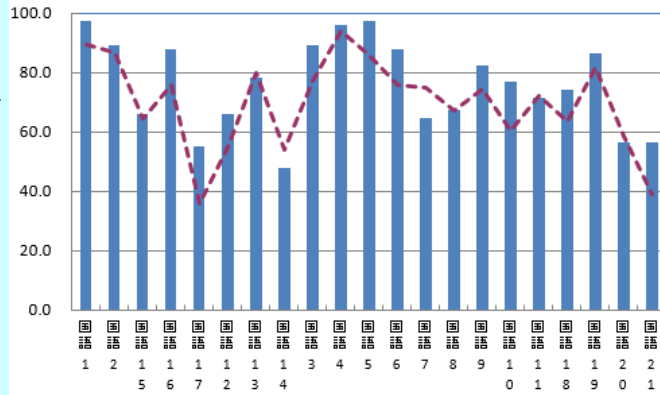
指導方法等の改善計画について [国語科]

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 75.7%, 県 69.7%)

領域別平均通過率



教科書の平均通過率



本年度の結果について

HR学習と朝学習や、学力定着週間などの取組を1年間を通じて行うことにより、生徒の学習に対する意識や意欲が向上してきた。また、くり返し行うことで、「故事成語」(89.0%)、「文語の決まり」(95.9%)、「表現の技法」(97.3%)、「主語・述語の関係」(87.7%)などの伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について、知識の定着がみられた。タイプIIでは、複数の資料から必要な情報を取り出す問題の通過率が74.0%(五1(1))、86.3%(五1(2))となっており、根拠に基づいた考えの記述は前年度の43.5%から56.2%に上がっている。しかしながら、まだ十分とは言えないため、継続して条件や根拠を意識した書くことの指導が必要である。

説明文の要旨の把握や、叙述の仕方の確認(述語に対応した主語を補う問い)については課題が残った。

重点課題

【課題1】 説明文を読んで、要旨を把握すること。

タイプI 三 5 要旨の把握の問題の通過率が47.9%
文章の主旨を捉え、必要な情報を取り出し再構成することができていない。

【課題2】 叙述の仕方や根拠に基づいた考えを適切に書くこと。

タイプI 四 3 叙述の仕方の確認の問題の通過率が54.8%
タイプII 五 2 目的に応じた引用の問題の通過率が56.2%
根拠に基づいた考えの記述の問題の通過率が56.2%
問われていることや条件に従って、適切に表現することができていない。
特に複数の資料を読み取ることが不十分である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

- ・説明文を読む際に、筆者の主張・事実・根拠・例示などを、論理の構成や接続詞、内容などに着目して分類し、要旨を把握したり、要約したりする活動を仕組んでいく。
- また、自分の意見を主張する文章を書かせて、論理の展開や表現の工夫について学ぶことでも、学校図書館司書と連携しながら読むことの力も身につけさせていく。

【課題2】

- ・複数の資料を読んだり、必要な部分を引用したり、書いた文章を推敲したりする場面を設定する。
- 特に推敲する作業を重視し、主述が一致しているか、条件を満たしているかなど、自分だけでなく他の人の文章についても考えることで身につけさせていく。

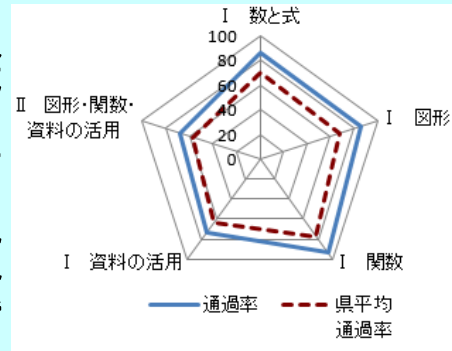
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1年・2年 「基礎・基本」類似問題	2年 H28「基礎・基本」		1年・2年 CRT	1年生 2年生 H28「基礎・基本」 H28「全国」	
目標値		60%	65%		60%	60% 65%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年 「基礎・基本」類似問題	2年 H28「基礎・基本」		1年・2年 CRT	1年生 2年生 H28「基礎・基本」 H28「全国」	
目標値		65%	65%		60%	65% 65%	
実施後数値							

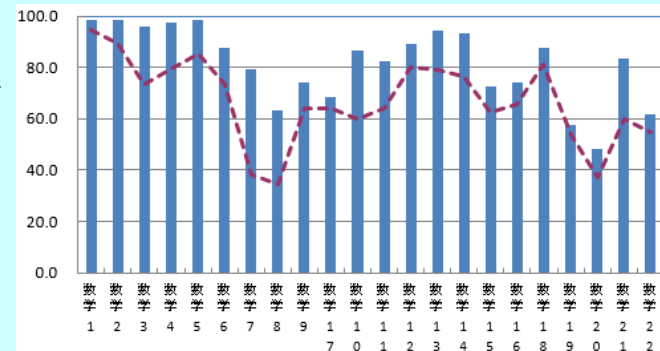
指導方法等の改善計画について [数学科]

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 81.4% , 県 66.8%)

領域別平均通過率



年度別の平均通過率



本年度の結果について

本学年の生徒は学力差が大きく、分からなければやらない、分からないからやらないなど意欲面に課題があった。そこで、「西中検定」等の取組を通して意欲を喚起させる学習を行ったり「学力定着週間」を設けてグループ学習や個別指導を行い「やればできる」ことを繰り返し体験させたりした。授業においても、課題解決学習による意欲の向上、自分のことばで説明できる場の設定につとめ「書くこと」を意識した授業を行った。その結果、問題に取り組む姿勢が身につけ始め、最後まであきらめずに問題を読み、書いて考え、全員が最後まで問題に向き合うことができた。(通過率 81.4%, 無解答 0%)

一方、自分のことばで説明しようとしているものの、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明したり、事象を式の意味に即して解釈してその結果について考えたりすることに課題が残った。

重点課題

- 【課題1】長い文章を読み、理解し、数学的な表現を用いて説明すること
タイプII【10】(1)
比例のグラフから式を求めて、値を代入して求めることは分かっているが、未知数2つのどちらに代入するのか書かれていないなど、数学的な表現を用いて説明できていない。(57.5%)
- 【課題2】日常の事象を関数と結びつけて関係を正しく考えること
タイプII【10】(2)
ことばの式から、事象の関係を解釈し、数学的な表現に置き換えてその関係を考えることができていない。(47.9%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】
 - 問題の条件を正確に読み取り、相手に伝えることができているのかを意識させた活動を仕組んでいく。まずは自分の意見、考えが書けることを大切にして、ペア学習や、グループワークを通してより良い表現のために補ったり直したりする活動を入れることで、論理的で十分な表現について身につかせていく。
- 【課題2】
 - 比例、反比例の関係を式だけでなく、その変化の割合等の特徴から判断できたり、日常での事象に関連づけて考えたりする場面を設定する。その際、数学的な根拠を明らかにし、数学用語を使って表現説明できる場面を仕組んでいく。

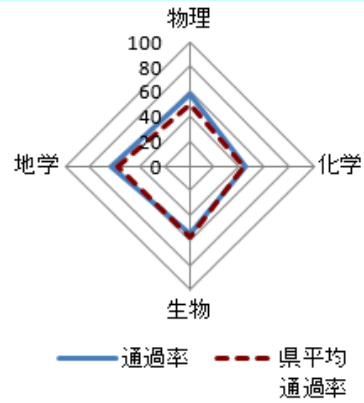
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年 H28「基礎・基本」		1年・2年 CRT	1年生 H28「基礎・基本」	2年生 H28「全国」
目標値			60%		65%	65%	70%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年 「全国」類似問題	2年 H28「基礎・基本」		1年・2年 CRT	1年生 H28「基礎・基本」	2年生 H28「全国」
目標値		55%	50%		55%	60%	60%
実施後数値							

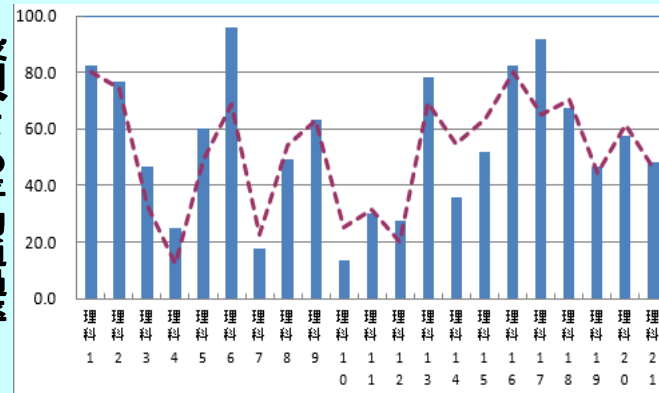
指導方法等の改善計画について [理科]

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 54.6 %, 県 51.8 %)

領域別平均通過率



教科別の平均通過率



本年度の結果について

本年度の生徒は、基礎的・基本的な知識の定着や科学的な思考を必要とする取組に課題があった。そこで「学力定着週間」を設けてグループ学習や個別指導を行い、理科の基本用語を何度も繰り返し学習させた。授業においても、意欲的に取り組めるような「発問」の工夫をしたり、観察・実験の技能を身に付け、科学的な思考を必要とする課題に対しては、グループ交流させたり、グループ学習や考察を重視し、自分の言葉で表現することを意識した授業を行った。その結果、問題に取り組む姿勢が見られるようになり、最後まで問題を解くことができた。(通過率 53.9%, 無解答率 0%)
一方、観察・実験における器具の名称や使い方などの基本操作の習得や基礎的・基本的な語句の定着、および自然事象を理解し、活用・表現する問題に課題が残った。

重点課題

【課題1】 出題の意図を理解して解答する問題

タイプ I 4 (3)

実験結果から水とエタノールが分離したことを理解しているものの、蒸留に関して知識・理解が十分でなかった。(通過率 13.7%)

【課題2】 出題の指定の語句を用いて表現する問題

タイプ II 3 (2)

昨年度に出題された溶解度に関する問題は、対策をした問題であったため、内容的には理解していたものの、語句を活用して説明することに課題があった。(通過率 17.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ・設問が求めている内容を読み取り、それを表現していく活動を積極的に取り入れる。
- ・各単元において、知識・理解が定着し、活用・表現する能力を養うように、適切な課題設定を行う。

【課題2】

- ・身近な自然事象に目を向けた導入を行い理科への興味を高めるとともに、発問を工夫し、科学的用語を正しく用いて自分の言葉で表現できるような発表の時間を十分にとる。
- ・観察・実験の技能を身につけるために、観察・実験にグループで積極的に参加させ、観察・実験から科学的な思考・判断ができるような課題発見・解決学習の単元開発をすすめ実践する。

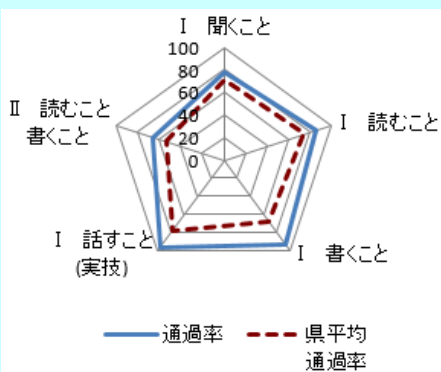
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1年生 「基礎・基本」類似問題	2年 H28 「基礎・基本」		1年・2年 CRT	1年生 H28 「基礎・基本」	
目標値		50%	60%		60%	60%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1年生 「基礎・基本」類似問題	2年 H28 「基礎・基本」		1年・2年 CRT	1年生 H28 「基礎・基本」	
目標値		50%	60%		60%	60%	
実施後数値							

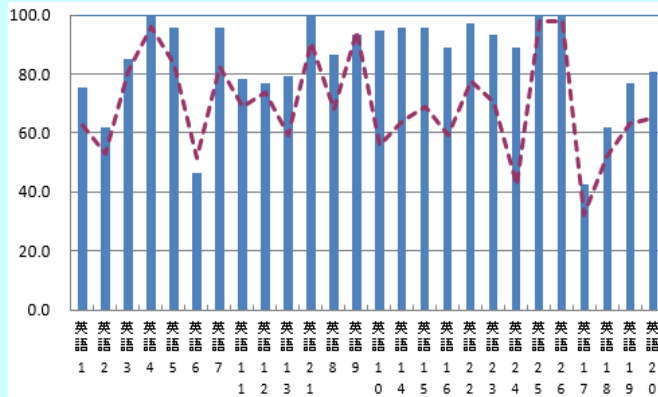
指導方法等の改善計画について [英語科]

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 84.2 %, 県 69.5 %)

領域別平均通過率



授業11月の平均通過率



本年度の結果について

本学年の生徒が1年時に行った事前調査結果より、文章を読み、分かった情報や自分の考えを書くことに課題があることが明らかになった。そこで、授業の中で帯学習時間を設定したり、放課後に個別学習を行ったりするなど、分からないから書かないのではなく、分かった情報や自分の考えを書いて表現することで、書くことへの意欲につなげていくように指導を継続して行なった。その結果、無解答率が0となり、読み取れた情報を書き、自分の考えを表現しようとする姿勢につながっていると考える。

本年度の結果において、タイプIは87.7%、タイプIIは65.4%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な学習内容については概ね定着していると考えられるが、学習した知識・技能を活用し、英語で表現する力にはまだまだ課題があることが分かる。

重点課題

【課題1】適切な質問を考え英文を書くこと

タイプII【11】(1)

文の前後から会話の流れは理解しているが、主語に着目できておらず、場面に応じて適切に表現する力が定着していない。(通過率 42.5%)

【課題2】英文を聞き、概要や要点を把握すること

タイプII【4】(2)

まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取ることができていない。(通過率 46.6%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ・コミュニケーション活動に、ペアだけでなく、グループワークを取り入れることで、人称を変化させながら場面に応じて適切に表現する活動を仕組む。また、生徒にとって身近な場を設定し、既習事項を用いて場面にあったやりとりを考えさせる表現活動を増やしていく。

【課題2】

- ・まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を定期的に行う。その際に、5W1Hを意識しながら概要をつかめるようにワークシートの工夫を行うなど、メモをとりながら聞き取るように指導する。また、本文読解を行なう際にも、Q&Aのリスニング活動を取り入れることで、大まかに内容を聞き取る活動を仕組む。

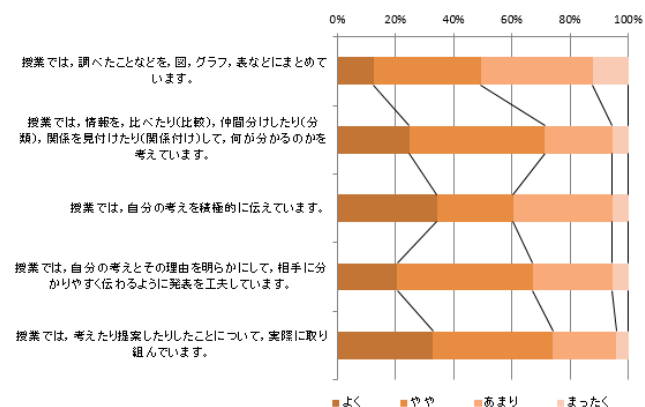
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年 「基礎・基本」類似問題	H28「基礎・基本」		1年・2年 CRT	1年 H28「基礎・基本」	
目標値		60%	50%		60%	60%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			H28「基礎・基本」		1年・2年 CRT	1年 H28「基礎・基本」	
目標値			60%		60%	70%	
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習

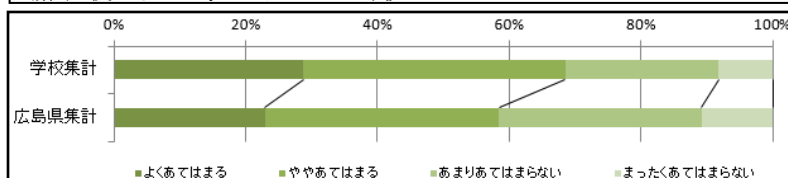
「課題発見・解決学習」(2)



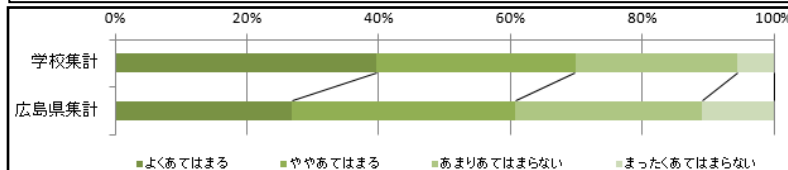
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
学習を整理・分析するときに「調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめている。」と回答した生徒は49.3% (県平均は49.1%)であった。	教科学習との関連を図り、教科と総合的な学習の時間が互いに支え合うように配慮する。特に総合的な学習の時間の中で情報の収集、整理・分析、まとめ、振り返りといった一連の学び方を習得させ、全教科へと拡充していく。	2	70%	生徒アンケート	12月		

(2) 教科

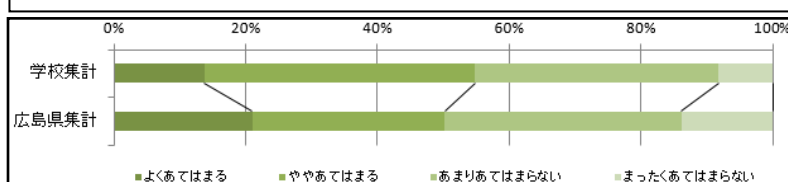
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



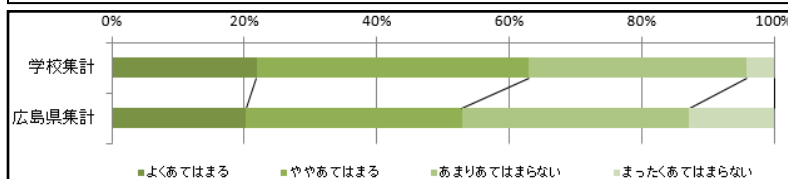
数学の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	○「国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしている生徒の割合が68.5% (県平均58.5%)であった。	○生活の中や文章の中に課題をみつけ、解決する単元や授業を開発する。また、ふり返りの中で、学んだことがどのようなことに生かされていくかを言語化し、意識化させる。	2	75%	生徒アンケート	12月		
数学	○ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしている生徒の割合が69.9% (県平均60.8%)であった。	○身近な生活を題材にした単元開発を行い、日常の課題を解くために学習したり、既習から課題を解決したりすることで、自ら活用しようとする意欲・態度を育てる。	2	75%	生徒アンケート	12月		
理科	○理科の授業では、「自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」の肯定的回答が54.8% (県平均50.2%)であった。	○観察・実験において、自ら考えた内容を、グループ学習で交流させ、それをまとめ、考察する取組を積極的に実践していく。	2	60%	生徒アンケート	12月		
英語	○聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしている生徒の割合が63.0% (県平均52.8%)であった。	○リスニングではキーワードになる単語をメモする、長文読解では線を引くなどして、情報を整理し理解につなげる指導をしていく。また、グループ学習を通して、聞き手を意識し、英語で自分の意見感想が言えるような場を設定する。	2	70%	生徒アンケート	12月		